

9月定例会中に平成24年度決算を審査しました！（詳しくは4ページ）



米百俵まつり

—越後長岡時代行列出陣式(千秋南公園)—

10月5日(土)に米百俵まつりが開催されました。戊辰戦争の長岡藩隊を忠実に再現した「越後長岡時代行列」では、市民約500人が千秋が原での出陣式の後、大手通りに向かって行進しました。このほか、大手通りではホコ天イベントや米百俵の演技などが行われ大盛況となりました。

災害復旧事業費など 一般会計補正予算を可決

9月定例会において市長から提出された一般会計補正予算を、本会議最終日に可決しました。

補正予算の概要

■災害復旧事業費（7月・8月豪雨、台風18号災害など）	41億9,422万円
■長岡北スマートIC（仮称）関連道路整備事業費	2,000万円
■上条遺跡発掘調査事業費	1億3,650万円
■枳尾ごみ処理施設管理運営費	▲2,832万円
■企業立地促進補助金	6,410万円
■空き家等適正管理条例に基づく建物撤去費	750万円
■病児保育事業費	800万円



議案の提案理由を述べる森市長

意見書1件を可決

9月定例会において議員から提出された意見書を本会議最終日に可決し、内閣総理大臣、財務大臣に送付しました。なお、全文は市議会ホームページに掲載しています。

新聞の軽減税率を求める意見書（要旨）

新聞販売店は、国民の知的インフラとしての新聞を毎朝届けることで国力の維持に貢献しているという誇りを持ち、戸別宅配網を維持し、国民の政治的・社会的関心を喚起し続けることが使命と考えて日々の仕事に取り組んでいます。

政府は景気回復に向けて積極的に政策を展開していますが、来年4月に予定されている消費税の増税によって各家庭の経済的負担が増し、新聞の購読を中止する家庭がふえることが懸念されます。

また、新聞販売店の経営が大幅に悪化すれば、雇用にも悪影響を与え、世界に誇る新聞の戸別配達制度の堅持も危ぶまれます。

よって、政府におかれては、消費税の増税に当たり複数税率を導入し、新聞への軽減税率の適用が実現されるよう、強く要望します。

平成24年度決算を認定

9月定例会最終日、平成24年度一般会計・特別会計決算を賛成多数で、水道事業会計・ガス事業会計決算を全会一致で認定しました。（詳しくは、4ページへ）



平成24年度一般会計・特別会計の決算を賛成32人、反対4人の賛成多数で認定



笠井 則雄 議員 (4期・共産党市議団)

中心市街地開発について

問 大手通表町地区再開発事業において、従来と同様の保留床購入方式をやめて、床を借用する方式に抜本的に見直すべきと考えるが、事業費総額・保留床購入額と本市の見解はどうか。

答 一般的に土地や床を購入するよりも借りた方が節約になると考える方もおられるかもしれないが、多くの市民にしっかりと活用していただく公共施設の場合には必ずしもそうとは限らないと考えている。整備予定の新社会福祉センターは全市民を対象とし、福祉拠点として今後数十年使うこと

を想定しており、安定した運営が必要となるため負担の少ない保留床取得とした。また、概算事業費は約51億円、これに対して交付する補助金は約24億円、このうち本市の負担分は半分の約12億円である。保留床購入額は、地元地権者で構成する組合と現在協議中である。

問 商店リニューアル助成事業について、本市も導入するべきと考えるがどうか。

答 商店のリニューアルは商業の活性化につながる手段の一つであり、市民のニーズを捉えたサービスや品揃えといったソフトのレベルアップと一体になって初めて効果を発揮するものと考えている。単に店舗を改装するだけではなく、既存の店舗の皆さんや新たな起業家も含めた熱意と意欲を持った方が市民の喜ぶ新たな商業の風を興すようなものには、新たに助成を検討する価値があると考えている。



古川原 直人 議員 (3期・市民クラブ)

支所機構について

問 災害時の職員適正配置について、本庁に勤務する支所地域出身者は、災害時には出身地域の災害対応に従事するよう徹底すべきと考えるがどうか。

答 災害時の職員体制は、通常時の人員配置とは別の体制となる。本庁などに勤務し支所地域に居住地がある職員については、可能な限り居住地のある支所地域を災害時の配置先とし、災害対応を行うこととしている。この体制については、今後も職員間に周知徹底し、さらに機動的な災害対応体制にしていきたいと考えている。

斎場の整備計画策定について

問 老朽化している寺泊斎場・与板斎場について、統合を視野に入れた早期の整備計画策定に着手すべきと考えるがどうか。

答 平成19年に長岡斎場の改築を行い、今年度から一番古い板尾斎場の整備を進めている。寺泊・与板の斎場はともに老朽化が進んでおり、改築整備の必要性については十分認識している。現在、斎場の整備にあたっては、全国的にも人生の終えんの場にふさわしく、厳粛な雰囲気の中でも明るいイメージを持った施設づくりに変わってきている。寺泊・与板斎場については、市全体の配置バランスや今後の利用動向なども見据えながら地域の声を十分反映し、統合整備も選択肢として、建設の場所、時期、施設規模などの検討を進めていきたいと考えている。



諸橋 虎雄 議員 (3期・共産党市議団)

平成25年7月・8月豪雨災害復旧と豪雨災害対策について

問 豪雨災害が耕作放棄につながるが、農家負担の軽減が最大の課題である。国の災害復旧事業や市単独の災害復旧事業で行った場合、農家負担の軽減と災害復旧にあたっての本市の基本的な考え方について伺う。

答 国庫災害復旧事業は、1年間の農家1戸当たりの被害額を確定した後に補助率が算定される仕組みになっている。補助率の確定は本年末から来年1月頃となるが、本市は激甚災害の指定を受け、高率補助となる見込みである。

住宅リフォーム支援事業

問 消費税が引き上げられた場合、個人消費が落ち込み、景気悪化が心配される。また、豪雨災害による住家の修理などが必要になるため、事業を継続してはどうか。

答 現在、今年度のリフォーム工事が行われていたため、最終的な実績報告書やアンケート結果などを十分に踏まえて判断したいと考えている。なお、判断に当たっては、国の消費税引き上げの動向などにも注視しながらより効果的な住環境の向上を図るための制度設計の見直しも含め、総合的に検討していきたい。



藤井 盛光 議員 (1期・無所属)

市と地域住民のかかわりについて

問 地元の協力あつての花火大会であるため、花火観覧席について、市民優先の便宜を図るべきと考えるがどうか。

答 今年の花火大会は、全体の観覧席数を拡大するとともに、指定席の販売方法を先着方式から抽選方式に変更したほか、各種有料席の販売および再販売をアオーレ長岡のナカドマで行うなど、市民がチケットを購入しやすいう工夫を図った。しかし、それでも指定席を入手できなかったことも事実であるため、今年度の反省点や

意見を踏まえながら、より市民に満足していただける方策を検討していきたい。

市民の政治参画啓発について

問 改憲・護憲に関する議論を市民活動においても促進すべきと考えるがどうか。

答 現在、改憲・護憲それぞれ立場でさまざまな議論がなされているが、行政においては公平・平等・中立の立場が常に求められる。憲法など政治的な要素が強い課題に対し、議論が特定の方向に偏ってはならず、行政が率先して議論の場を設けることは適当でないと考えている。しかし、本市の各種イベントや地域おこしなどの活動のほか、社会的な課題にも積極的に取り組んでいる団体も多くあるため、市民活動の一つのテーマとして自主的に自由な議論の場を設定して市民の関心を高めていくことが適切ではないかと考える。



広井 晃 議員 (1期・市民クラブ)

水害における避難対策について

問 ゲリラ豪雨に対応する避難所の指定や経路を示すハザードマップの見直しと周知が必要と考えるがどうか。

答 ハザードマップは水防法に基づき、河川の氾濫を想定した浸水想定とその際の対応を知らせるものであり、ゲリラ豪雨により発生する内水被害は想定していない。対策として、地域住民自身が避難経路などの情報を共有し合えることが重要である。一つの手段として、昨年度と今年度でモデル地区を選定して地域単位での防災マップを作

成していることなどを参考に挙げ、地域の経験と知恵を防災に生かすことの重要性を市民に広く伝えていきたい。

平和事業について

問 2年後の戦後70周年に併せ、平和に関する新たな事業を検討してはどうか。また、実施に際しては、市民協働の視点が大切と考えるがどうか。

答 これまでも終戦後の節目となる年には、平和に関する事業を実施してきたが、70年目となる平成27年度にも、平和の尊さをより多くの市民から認識されるのにふさわしい事業を実施できるよう検討したい。また、市民協働の点については、事業に広く市民の方から参加いただくためにも大変重要であると認識している。今後とも平和事業がよりよいものとなるよう市民や関係団体の方々の思いを大切にしていきたい。



加藤 尚登 議員 (2期・市民クラブ)

豪雨災害について

問 土砂災害を防ぐには砂防堰堤の設置が必要である。乙吉川の砂防堰堤の必要性と緊急性について伺う。

答 今回の災害で、乙吉川は上流で砂防堰堤を設置し、土砂の流出を抑制することが極めて重要であると考えている。本市は、国に対して砂防対策の推進を、県に対しては乙吉川の砂防事業の早期着手を緊急要望した。県においても、乙吉川本川上流部と乙吉川に

流れ込んでいる溪流の2カ所に砂防堰堤の新設が必要と考え、国に対し災害関連緊急砂防事業の採択を要望中であると聞いている。今後、本市としても、一日も早い工事着工・早期完成を県に要望していきたい。

問 新保地内の市街地浸水被害と今後の対策について伺う。

答 今回のみならず幾度となく浸水被害が発生していることは認識している。当該地区を含む川崎地域の浸水対策については、都市雨水対策計画に基づき県と連携し、稲葉川の改修に合わせ雨水管渠の整備を行ってきたところである。改めて排水系統の調査を行った上で、関係機関と連携を図りながらルートの変更も含めた対策を検討し、できるだけ早く住民の皆さんに対応策を示せるよう進めていきたい。

その他の質問

●小・中学校、保育園の給食について

※1 商店リニューアル助成事業：商業の活性化を目的に、店舗の改装などに対してその費用の2分の1を補助する高崎市の事業。



中村 耕一 議員
(2期・公明党)

総合型地域スポーツクラブの育成について

問 総合型地域スポーツクラブの理念に対する市の認識について伺う。

答 本市では、従来からコミュニティセンターを拠点にして、各地区の住民のためのスポーツ活動を自主的・主体的に運営している。これは国の目指す総合型地域スポーツクラブの考え方と同じ方向であると考えている。また、誰でも・いつでも・どこでも・いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指すという点でも国の考え方と同

じであると認識している。今後も取り組みを継続的に支援し、各支所にもコミュニティスポーツクラブの育成を図っていくよう努力していきたいと考えている。

問 行政としての支援をどう考え、どのような支援を行っていくのか。

答 本市で設立されている総合型地域スポーツクラブに対しては、自立した運営体制の確立に必要な人員の確保及び安定した経営の構築に必要な財政基盤の確立を図るため、緊急雇用創設事業臨時特別基金事業を活用し、その役割を担う活動支援員を配置している。今後設立される総合型地域スポーツクラブにおいても、スポーツ協会やスポーツ推進員と連携を図りながら、設立や運営に伴う指導、助言をはじめ、さらなる担い手の育成など、支援策を講じていきたい。

問 買利物難民と言われる人の実態と、買利物を不自由に感じている人たちに対する対策はどうか。

答 総合計画を策定する際に実施したまちづくりアンケートの結果で、買利物などの日常生活が不便であると回答した人を見ると、70歳代以上が多く、中山間地域になるほど多いという結果が出ている。対策として、高齢者などを対象として社会福祉協議会がボランティアを活用した買利物の代行を行っている。また、NPO法



大平 美恵子 議員
(3期・無所属の会)

到来する高齢社会を見据えた地域福祉計画について

人等による買利物への送迎サービスも実施されている。

問 地域住民参加を促し、地域別に福祉のあり方を探っていく取り組みについて、本市の現状と今後の方向性は。

答 町内会役員や民生委員など地元関係者と地域の医療機関や介護サービス事業者などが定期的に集まり、地域の課題を話し合う地域福祉連携会議を市内48カ所で現在実施している。会議では、認知症高齢者の日常的な見守り体制づくりといった課題が話し合われるなど、地域で支え合う仕組みづくりが繋がっている。しかし、過疎化が進む中山間地域の中で対応困難な事例や、急速に進む高齢化の中で特別な対応が求められるケースも考えられるため、住民による自主的な活動の機運を醸成しながら、地域住民同士で支え合う仕組みをさらに充実していくためにしっかりと取り組んでいきたい。

問 今後の防災行政無線の活用と維持について本市の見解を伺う。

答 防災行政無線の戸別受信機を利用している地域については、情報を確実に伝える手段の一つとして有効と考えているが、今後の行政無線の取り扱いについては、デジタル化に伴う費用対効果を勘案し、他の伝達手段を含めた総合的な検討を実施しながら、整備方針を判断する必要があると考えている。整備方針が決まるまでの当分の間は、既存の戸別受信機



関 充夫 議員
(2期・しん長岡クラブ)

災害に備える地域の諸課題

などを適正に管理し、活用したい。

問 国の災害復旧事業において原形復旧に限定するのではなく、改良復旧が可能となるよう制度の見直しを国に対して要望することが必要と考えるがどうか。

答 国の補助を受けて行う災害復旧事業は原形復旧が原則であり、被災前より改良的な要素を加えることは認められていない。中山間地域の災害復旧では、この原則が、復旧事業費の増加につながり、それにより最終的な農家負担額が増えてしまうことがある。また、このたびの豪雨災害の国の査定は10月から11月と見込まれており、その後の工事発注を考慮すると、豪雪地が多い中山間地では来年の作付けに間に合わないといった事態が発生する。このようなことから、事務手続きのさらなる簡素化や補助率算定の定率化なども含め、国に対して要望していきたい。



細井 良雄 議員
(2期・共産党市議団)

市立の診療所の現状と課題

問 診療所の医師の確保に関して定年制など難しい課題があり、柔軟な対応が必要であると考えるが、勤務医の現状について伺う。

答 診療所の勤務医については、医師という専門的な業務であることから、定年を65歳としている。しかし、特に近年は新たに医師を確保することが非常に厳しく、定年後も勤務いただいている医師もいる。今後も、医師の確保は厳しい状況が予想され、再雇用によって医師を確保することも視野に

入れて対応することが必要である。その際には、これまでの地域医療の実績や住民との信頼関係などを十分に考慮した雇用条件とするなど柔軟な対応を図っていきたい。

問 小国診療所の医師1名が年度末に退職とのことだが、今後の医師の確保について本市の対応はどうか。

答 小国診療所の医師は、来年3月末に退職する予定である。本市は国・県に支援を要請し、医師会をはじめ市内の主要な医療機関や医師間のネットワークなどをフルに活用して、医師の確保に取り組んでいる。また、地元地域委員会などとの意見交換会で協議を重ね、地域と一体となった活動を行っている。今後も地元の皆さんと協議しながら医師の確保に努めていきたい。

問 小国診療所の医師は、来年3月末に退職する予定である。本市は国・県に支援を要請し、医師会をはじめ市内の主要な医療機関や医師間のネットワークなどをフルに活用して、医師の確保に取り組んでいる。また、地元地域委員会などとの意見交換会で協議を重ね、地域と一体となった活動を行っている。今後も地元の皆さんと協議しながら医師の確保に努めていきたい。



関 貴志 議員
(4期・無所属)

ミーティングマネジメント

問 変化の激しい現代では、多様な人間が集まったの合意形成や情報共有が重要であり、会議や会合の質を高める必要がある。運営が困難と言われる、深刻な対応が生じる会議に必要な技能や心構えをどのように考えているか。

答 最も重要なことは、まず相手の意見をよく聞くこと、つまり傾聴と感情的にならないことである。お互いの価値観を認め合っただけで多様性を尊重し、みんなが満足できる着地点を探っていくことが必要である。

問 本市はこれまでファシリテーターを養成してきたが、今後は活用場面を拡大する必要がある。また、ファシリテーターが傾聴したり参加者の感情をうまく扱うには、まず自身の内面の声を抑え、自らの感情をコントロールする必要があるため、自分自身と向き合えるようなファシリテーター養成研修を行うべきと考えるがどうか。

答 男女共同参画推進条例検討ワーキングチームなどの場で、ファシリテーター研修を受けた職員が円滑な進行や質の高い意見集約に貢献した。今後のファシリテーター活用には、こうした事例を広く全庁に紹介し、活躍の場が広がるよう努力したい。また、これからは結論を導くことや合意形成が困難な会議が増えることが予想される。そのような場面では、多様性を認め、感情をコントロールする能力や度量が必要であり、この部分を意識した研修を行いたい。



丸山 広司 議員
(2期・市民クラブ)

進む人口減少とまちづくり

問 今後も人口減少が予測される中で、表町西地区をはじめ、中心市街地にさらなる機能集積を図る必要があると考えるが、コンパクトなまちづくりをどのように進めていくのか。

答 アオーレ長岡をはじめとする中心市街地の各施設には多くの市民が訪れ全国からの視察者が絶えない状況であり、市民が高い評価をし、「ハレの場」としての愛着を持ち始めている。市民が求めている機能を的確にとらえてまちなかへ導入することが市民と一緒に

まちづくりを進める原動力となる。中心市街地が、合併地域を含めた本市全体のけん引役となるようまちづくりを進め、市民の皆さんと一緒にこのまちを育てていきたい。

問 今後、高齢化が進む中で段差の少ない、歩きやすい、快適・安全な歩道空間整備がまちづくりの観点からも必要であると考えるが、本市の見解はどうか。

※2 ファシリテーター：集会・会議などで、テーマ・議題に沿って発言内容を整理し、発言者が偏ることなく、順調に進行するように口添えする役。
※3 ラダー型広域幹線道路網：市の中央部を流れる信濃川を軸として、道路が「はしご状」に配置されていること。

平成24年度決算を認定

決算審査特別委員会で審査

9月定例会招集日に、平成24年度の予算執行における収入・支出が適正に行われたかを審査する「決算審査特別委員会」を設置し、下記のとおり19人の委員を選任しました。9月24日～26日の3日間にわたり同委員会を開催し、内容について慎重に審査した結果、一般会計・特別会計・水道事業会計・ガス事業会計いずれも認定となりました。

昨年までは11月に開催していましたが、決算審査の意見を新年度予算編成に反映させるため、今年から9月定例会中に開催したものです。

(決算審査特別委員会委員)

◎酒井 正春	○水科 三郎	藤井 盛光
浮部 文雄	広井 晃	山田 省吾
佐藤 伸広	関 充夫	細井 良雄
中村 耕一	加藤 尚登	松井 一男
大平美恵子	諸橋 虎雄	藤井 達徳
古川原直人	加藤 一康	五井 文雄
大地 正幸		(◎委員長 ○副委員長)



決算審査特別委員会の採決

<平成24年度一般会計決算の概要>

一般会計の歳入総額から歳出総額と翌年度に繰り越す財源を差し引いた実質収支は、50億152万9千円の黒字となりました。

歳入

基幹収入である市税は、景気の回復傾向により個人市民税や法人市民税が見込みを上回ったほか、地方交付税が見込みを上回りました。また、国庫支出金と市債は、国の緊急経済対策に伴う事業を平成25年度に繰り越したことにより予算額を下回りました。

歳出

厳しい経済・雇用状況と、東日本大震災後の暮らしの先行き不安に対処するため、「市民の安全と安心の確保」を最優先課題として、経済・雇用対策、生活の支援、災害に強いまちづくりの推進に取り組みました。また、一般行政経費等の節減に努めながら、「市民協働によるまちづくり」や「シティプロモーションの推進」など重点施策の柱に沿って、さまざまな施策や各種事業を実施しました。さらに、暴風災害や豪雪災害に全力で対応しました。

区分	歳入	歳出
一般会計	1,438億6,226万4千円 (対前年度比12.7%減)	1,378億9,006万9千円 (対前年度比13.2%減)
特別会計・水道事業会計 ・ガス事業会計(総額)	745億4,446万4千円 (対前年度比1.0%増)	738億8,948万3千円 (対前年度比1.4%増)

各会派の意見・評価

賛成

市民クラブ

生活に密着した公共投資により、市民の安全・安心の確保、地域経済・雇用対策、子どもの医療費助成の拡充、地域防災計画(原子力災害対策編)の策定、支所地域の小規模災害対策「地域の救急箱」、生ごみバイオガス化施設の整備、子育ての駅とちお「すくすく」の開設、除雪対策など市民生活を支える事業の着実な執行を高く評価する。「長岡の顔」アオーレ長岡が市民交流の拠点として賑わい、市域全体にその効果が波及し、「ふるさと長岡」を実感できる均衡ある施策を望む。

賛成

しん長岡クラブ

個人、法人市民税と地方交付税などが見込みを上回ったとはいえ、依然として厳しい経済情勢や雇用不安が続く中、平成24年度予算を逸脱することなく各事業を実施し、成果を上げた。また、想定外の自然災害などに対しても、市民生活を守る施策や産業界への支援など、状況に応じ、的確に対応したことを評価する。財政指標、健全化判断比率は、前年度と比較して各ポイントとも改善しており、引き続き健全な財政運営に取り組むことを期待する。

反対

共産党市議団

東日本大震災の救援活動、豪雨災害復旧事業、中小企業への資金繰り支援、住宅リフォーム支援事業などについては評価するが、多額な建設費と維持管理費の高騰が心配される表町地区再開発事業の着手や、ワシントン花火打ち上げ経費、学校給食の民間委託などには問題がある。また、負担の重い国民健康保険料や介護保険料がさらに大幅に引き上げられている。大型開発優先から暮らしと福祉、保健・医療、教育充実へと市政の転換を求める。

賛成

民成クラブ

平成24年度の実質収支黒字額は50億円を超え、実質公債費比率など財政の健全化を示す各指標も改善された。本市が行った事業は、経済・雇用対策をはじめ、暮らしの先行き不安に対処するものが多く、災害に強いまちづくりにも取り組んだ。初年度のアオーレ来場者数も予想を大きく超え、重点施策である市民協働とシティプロモーションの推進は一定の成果を得た。これからも堅実な財政運営に努め、政策を通じて市民の期待に応え続けることを求める。

賛成

公明党

厳しい経済・雇用状況と暮らしの先行き不安に対処するため、市民の安全と安心の確保を最優先に中小企業の支援や就労支援に力を入れたこと、高齢者・障害者の暮らしの安心を支援する諸政策も実施したこと、耐震補強工事などの教育環境の整備も着実に進めたこと、災害に強いまちづくりのため公共事業も推進したこと、市民が安心と希望、そして誇りを持てる長岡市に向けて予算が有効に執行されたことを評価する。今後とも市民に寄り添った施策を期待する。

賛成

無所属の会

新感覚の庁舎にふさわしく、市民を待たせない総合窓口開設やコンテンツの充実が図られ、あわせて市民交流の拠点としてアオーレを円滑に起動させたことをまず評価する。福祉のカフェ開設や就労支援など、若者や障害者の雇用問題改善に市を挙げて取り組む道筋がはっきり見えてきた。長岡の未来を描ける子どもたちが育つよう、拠点施設を活用した教育的交流事業を今後も期待する。災害への備えと自助・共助の意識向上に努め、引き続き市民の安全・安心を守り抜く施策を望む。

9月定例会 議決結果

9月定例会は、9月10日から30日までの21日間で開催し、12人の議員が市政に対する一般質問を行いました。

この定例会では、平成24年度決算を認定したほか、市長提出議案等28件及び意見書1件、請願1件を審査し、それぞれ右表（会派別議案等賛否一覧表）のとおり決まりました。

各種行政委員の選任・推薦に同意

9月30日の本会議最終日において、次の方を選任・推薦することに同意しました。

- 教育委員会委員 青柳由美子 氏(再任)
- 人権擁護委員 北本 明 氏(新任)
- 中曽根勝彦 氏(再任)
- 櫻井 陽一 氏(再任)
- 小林 修子 氏(再任)

会派別議員名簿 (9月30日現在)

市民クラブ	関 正史	松井 一男
	丸山 広司	長谷川一作
	古川原直人	加藤 尚登
	高見 美加	浮部 文雄
	広井 晃	高野 正義
	酒井 正春	五井 文雄
	小熊 正志	大地 正幸
	矢野 一夫	
しん長岡クラブ	永井 亮一	杵淵 俊久
	山田 省吾	関 充夫
	水科 三郎	
共産党市議団	笠井 則雄	諸橋 虎雄
	木島 祥司	細井 良雄
民成クラブ	佐藤 伸広	杉本 輝榮
	加藤 一康	小坂井和夫
公明党	藤井 達徳	中村 耕一
	山田保一郎	
無所属の会	大平美恵子	桑原 望
無所属	A 藤井 盛光	
	B 西澤 信勝	
	C 関 貴志	
	D 丸山 勝総(議長)	

会派別議案等賛否一覧表

9月定例会

○：会派全員が賛成 ×：会派全員が反対

議案等	会派名 ()は所属議員数	市民	しん	共産	民成	公	無	無	無	無	議決結果
		クラブ (15)	長岡 クラブ (5)	党市議 団(4)	クラブ (4)	明 党 (3)	所 属 の 会 (2)	所 属 A	所 属 B	所 属 C	
専決処分	専決第7号 平成25年度一般会計補正予算 ほか3件	○	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
補正予算	平成25年度一般会計 2件	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	平成25年度国民健康保険事業特別会計	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	平成25年度診療所事業特別会計	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
条 例	制 定										
	一 部 改 正										
	公立大学法人評価委員会条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
提 出	市立学校設置条例 ほか2件	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	体育館条例 ほか3件	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	市道路線の認定、変更及び廃止	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議 案 等	契約の締結 (川口学校給食共同調理場・中学校武道場)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	契約の締結 (長岡ニュータウン運動公園屋根付多目的コート)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	財産の取得(災害対応特殊消防ポンプ自動車)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	財産の取得(除雪ドーザ) ほか5件	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	公立大学法人長岡造形大学定款の制定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	負担付き寄附の受納(長岡造形大学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	財産の出資(長岡造形大学)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	決算の認定(平成24年度一般会計・特別会計)	○	○	×	○	○	○	○	○	○	認定
	剰余金の処分及び決算の認定 (平成24年度水道事業会計)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決及び認定
	決算の認定(平成24年度ガス事業会計)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
人 事	教育委員会委員の選任、人権擁護委員の推薦	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同意
議員提出議案	意見書										
請 願	新聞の軽減税率を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
請 願	新聞の軽減税率に関する請願	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採 択

常任委員会の所管事項に関する質問

各常任委員会では、議案審査に先立ちそれぞれ担当する事業等について質問する「所管事項に関する質問」を行っています。ここでは、質問項目の一部を掲載しています。詳しくは会議録(12月上旬発行予定)、インターネット録画中継をご覧ください。

総務委員会

- 債権管理適正化における公金徴収一元化の現状について
- 平成25年7月・8月豪雨災害における防災面(ソフト面)の課題について
- 合併からこれまでの地域委員会の評価について
- 原子力防災訓練と市民向けリーフレットについて など

文教福祉委員会

- いじめ基本方針の策定に向けた本市及び学校の対応について
- 学校給食の未納対応の状況と対策について
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、障害者スポーツの選手への支援策について
- 全国学力・学習状況調査の結果について など

産業市民委員会

- 起業等への支援について
- 長岡まつり大花火大会で有料指定席を抽選方式に変更したことによる改善点について
- 日本酒乾杯条例の制定など地酒の振興について
- 平成25年7月・8月豪雨災害農林関係復旧事業について など

建設委員会

- 歩道整備に対する方向性や計画について
- 道路除雪における除雪制度の今後の見直しについて
- 公共交通基本計画の進捗状況について
- 都市雨水対策の整備率について など

市議会の活動状況

● 9月定例会（9月10日～30日）

- 9月10日～12日 本会議
- 17日 産業市民委員会
- 18日 建設委員会
- 19日 文教福祉委員会
- 20日 総務委員会
- 30日 本会議（最終日）

● 常任委員会市内現地視察

- 7月24日 総務・文教福祉委員会
- 26日 産業市民・建設委員会

● 常任委員会行政視察

- 10月2日～4日 産業市民委員会
- 16日～18日 総務委員会
- 22日～24日 文教福祉委員会
建設委員会

● 特別委員会市内現地視察

- 8月8日 克雪・危機管理・防災
対策特別委員会

● 議会運営委員会

- 8月8日 9月定例会の会期について
- 9月6日 9月定例会の運営について
- 10日 9月定例会招集日の運営方針
について
- 30日 9月定例会最終日の運営方針
について

● 特別委員会

- 7月29日 議会活性化特別委員会
 - 8月27日 まちづくり・新エネルギー対策
特別委員会
 - 30日 議会活性化特別委員会
 - 9月13日 まちづくり・新エネルギー対策
特別委員会
 - 24日～26日 決算審査特別委員会
 - 26日 議会活性化特別委員会
 - 10月31日 議会活性化特別委員会（講演会）
- ※常任委員会行政視察報告については次号（2月1日発行187号）に掲載いたします。

8月8日 克雪・危機管理・防災対策特別委員会が被災現場を視察

平成25年7月・8月豪雨災害では、市内各地において土砂災害や浸水などの被害を受けました。特に被害の大きかった森上（栃尾）・乙吉町・寺泊山田の被害状況の視察を行いました。



森上（栃尾）の区長による説明



被災現場を確認する委員たち

10月13日 本市初となる原子力防災訓練を視察



森市長とともに避難先を確認する丸山勝総議長

万が一の原子力災害に備え、宮本地区、大積地区、青葉台地区の住民約6,300人を対象とした原子力防災訓練が行われ、議員がその様子を視察しました。現地災害対策本部会議や風向きを考慮した要援護者約100人による避難のほか、本市・自主防災組織・関係機関との連携を確認しました。

7月24日・26日 常任委員会が市内現地視察を実施

市議会では、議員の調査研究の一環として毎年市有施設や民間施設などを視察しています。今年7月24日に総務委員会と文教福祉委員会、26日に産業市民委員会と建設委員会がそれぞれ合同で現地視察を行いました。

7月24日 総務委員会・文教福祉委員会

- 生ごみバイオガス化施設 ●子育ての駅とちお すくすく
- 美術センター（中央図書館内）「生誕90周年記念 山下清展」
- さいわいプラザ（仮称）改修工事現場



子育ての駅とちお すくすく



さいわいプラザ（仮称）改修工事現場

7月26日 産業市民委員会・建設委員会

- 生ごみバイオガス化施設 ●はちすば通り道路美装化工事
- 新町踏切（改良後） ●殿町踏切（改良前） ●郷本川改修工事



はちすば通り



新町踏切

8月2日 ホノルル市マーティン議長夫妻が市議会を表敬

本市と米国ハワイ州ホノルル市は姉妹都市として「平和」をテーマにした交流を積極的に推進しています。マーティン議長夫妻は、アオーレ長岡に正副議長を表敬訪問した後、長岡空襲で亡くなられた方々を慰霊して鎮魂たむけの花を献花しました。

（左から）マーティン議長夫妻、丸山勝総議長、高野正義副議長



10月5日 米百俵まつり～ときを越え、一日限りの長岡藩 ここに集結！～



かけ声とともに練り歩く議員

米百俵まつり「越後長岡時代行列」に丸山勝総議長をはじめ、議員が参加しました。議長は長岡藩主・牧野忠恭に、ほかの議員は侍や山伏などに扮して、出陣式が行われた千秋南公園から大手通りまで練り歩きました。

12月定例会を傍聴しませんか？

本会議

- ・開会 午後1時
- ・受付 午後0時30分からアオーレ長岡西棟2階にて
- ・定員 65人、車いす席2人、親子傍聴席10人
- ・手話通訳をご希望の方は、1週間前までに議会事務局まで

常任委員会

- ・開会 午前10時
- ・受付 午前9時30分から議会事務局（アオーレ長岡西棟4階）にて
- ・定員 12人

12月定例会の日程は、11月上旬に決定します。

議会情報を発信中！

本会議・委員会の詳細は、12月上旬発行予定の会議録、またはホームページ上の会議録検索システムをご覧ください。

■会議録のあるところ

アオーレ長岡東棟1階行政刊行物コーナー、東棟3階情報公開コーナー、西棟4階議会事務局、各支所、市内図書館 など

■会議録検索システム、インターネット録画中継、議会の日程

⇒「長岡市議会ホームページ」にアクセス



議員の年賀状は禁止されています

市議会議員は、答礼のための自筆によるものを除き、選挙区内の人に対して年賀状を出すことやお歳暮などを贈ることが公職選挙法で禁止されています。ご理解をお願いいたします。

